

わらべうた講座

わらべうたってな・ん・だ？

講師：近藤 信子氏

(わらべうた研究者)

つくば市の「とんとんやかた」で、わらべうたを中心とした音楽教育を長く続け、全国各地でわらべうたの講師もされている近藤先生と一緒に、たくさんのわらべうたを実際に体験しました。

■わらべうたの実践

♪①「おせよおせよ」

2人1組で横向きに並んで立ち、肩と肩を思い切りぶつけて押し合います。寒い冬にピッタリ。簡単で、子供が大好きなわらべうた。

♪②「こどもかぜのこ」

「こどもかぜのこ」で握り拳を左右交互に前に元気よく出して、「じじばばひのこ」で寒そうに小さくなって震える。繰り返すと暖かくなるので、これも冬におすすめです。

♪③「つるつる」

輪になって手をつなぎ、先頭と決まった人が、輪の内側に沿って渦を巻くように歌いながら皆を引っ張り、渦が巻ききったらストップ。シッポの人と隣の人でトンネルを作り、歌いながら先頭の人が渦の外に出て元の輪に戻していきます。応用編でがんじがらめに！



♪④「いもやのおっちゃん」

2人1組で行うくすぐりうた。赤ちゃんには色々なところをくすぐってあげます。遊びを通した体のコミュニケーション。

♪⑤「いちにっさんにのしのご」

指で数を示し、指遊び。最初に片手で、次に両手。小さい子には体（頭、肩、腰、膝、足先）を使って遊んでも良いですね。歌の途中では早さを変えないように。

♪⑥「どのこがよいこ」

どの子もよい子になれる、子供たちが大好きなわらべうた。親子がニコッと笑顔になり、温かい気持ちになります。

♪⑦「ちょっとばーさん」

♪⑧「たこたこあがれ」

♪⑨「おてぶしてぶし」

両手を合わせた中に飴を入れて、歌に合わせて上下に振り、どちらの手に入っているか当てっこ。秋はドングリで。当たったら「大当たり！」、外れたら「大外れ！」

♪⑩「もちっこやいて」

おいしそうにいろいろなお餅を食べましょう。どういう食べ方がおいそうか、鏡を見ながらやってみて。

♪⑪「なべなべそこぬけ」

2人で向かい合って手をつなぎ、左右に大きく振り、「そこがぬけたらかえりましょ」で背中合わせに。もう一度歌って半回転して戻る。大きな輪になって、隣どうしが組になり、どんどん相手を変える。最後に一つの輪にな

ってみんなで手をつなぎ、大きななべに。

出たら帰るのは絵本と同じ。保護者会などでやるときは、最後は必ず、子供がお母さんのところに帰るようにしてあげてください。

♪⑩「ここはどうちゃんにんどころ」

おじいちゃんおばあちゃんに感謝。みんながいたから自分がある。育んでくれた愛情があって、現在の自分がここにいる。かわいい自分を認めて、好きになって、そこから出発してください。

■近藤先生の思い

・私の祖母はわらべうたをたくさん歌って、私たちを育ててくれました。昔の人はわらべうたを日常の中で歌っていました。

・わらべうたが家庭の中のコミュニケーションを支えてくれます。子供たちはわらべうたで元気になり、体を使っての遊び、言葉の楽しさを体験します。

・わらべうたを歌うときは、1回だけではなく、子供が歌いたくだけ、何回も繰り返して遊んでください。声の高さはその子に合わせてみましょう。

・歌い始めの「どうぞ」という声がけの言葉は、子供たちが歌いたくなるような思いをもってかけてください。

・私はわらべうたを 50 年やっていますが、今も毎回楽しいです。皆さんもどうぞ大好きなわらべうたを見つけて、子供たちとわらべうたでたくさん遊んでください。



■質問に答えて

Q 「おおさむこさむ」のわらべうたが好きなのですが、どうやればよいでしょうか。

A 「おおさむこさむ」は聞かせ歌。何回も歌った後、子供たちに流してください。

Q 2か月の子供にどんなわらべうたがよいでしょうか。

A わらべうたなら何でもよいと思いますが、2か月なら子守歌がよいでしょう。しかし、わらべうたは「これは2歳向け」「これは3歳向け」などということはありません。

大人が何でも自分が楽しいと思うものを、子供と一緒に動きをつけて遊んでください。

私たちは「教科書通り」にやるのが良しとされていますが、「教科書通り」はそれ以上にはなりません。

わらべうたは伝統として受け継いだものをそのまま子供たちに伝えることも大切ですが、お母さんや先生が伝える時に、その方の思いを大事にしてください。

ただ、初めて出会ったわらべうたを歌うときは、少なくとも50回は歌ってください。そうすると気持ちの良い早さ、納得する音や動きが出てきます。

簡単に物事を考えないで、ひとつひとつ大切に扱っていただきたいです。

ありがとうございました。

.....

参加者全員、近藤先生と一緒に、わらべうたを真剣に歌い、遊び、心から楽しんだ講座となりました。

(記録：埼玉県立久喜図書館 山元 明美)